柏崎体育

發行所　柏崎体育團事務局
（柏崎市役所内）
發行編集人　今井哲夫
印刷人　小田信夫
定價一部　10円
（毎月1回10日発行）

傳統の基礎を創つた華麗柏崎体育祭

柏崎体育祭は戰後復活して第四回を迎え、十一月六日七日の昼夜に亘り一中体育館で開かれた。

昭和二十六年に復活した第一回大會、第二回大會を經て第三回大會は第四回全國都市体育研究協議會參加の全國都市の体育担當者の眼前に展開し絶讃を博したが、この第一、二、三回大会とも屋外の陸上競技場に於いて行われたものであつた。

第四回大會は屋外挙行の慣例を破り室内体育館を使つて、屋外では行い難い種目も登場させ新機軸を出そうとし、時あたかも完成した一中体育館開きも兼ねて体育パレードを展開することとなつた。

ところが經費がないのには困つた。一中体育館開きでもあるので斯界の一流を招き華を添えたかつた。第一回大會にはラジオ体操の紅林武夫氏を、第三回大会は東京音体の校長藤村トヨ先生と同校の女子体操選手金光、澤村嬢を招いたが、豫算難で今回はそれが出來ない。市内勢力を結集し、刈羽郡も吸引し、縣内の直江津女子クレーン、クラブ（女子徒手体操グループ、全日本第五位、女子一般では全國の一、二位を爭う）の應援を得て行うこととなつた。

第一日（六日）は開會式に引き続き郡市中学校関係の演技を主にして行つた。

柏一中全員の柏崎市中學体操、第二中の二中組体操一中対北條中、二中対北鯖石中、一中對田尻中の男子籠球、一中對田尻中、三中對鯖石中の女子バレーボール、柏高對柏工のバレーボール試合が暗闇迫る頃までにぎやかな中學生の聲援の中で行われた。

夜の部は映畫の會から始まり、ニュース、スライド百万人のバレーボール、ボストンの榮冠を観賞した後第四回柏崎市ラジオ体操コンクールを行い、第一部町内對抗の部では港町三が前年度に引き續いて連勝し、第二部は柏崎市役所の優勝第三部は理研と西川鐵工所が伯仲した演技を行い僅差で理研が西川を破り宿願を達した。

第二日（七日）は午前八時半より開會、全柏高對全柏崎工のバレーボールは全柏高倶が先年全國綜合バレーボール大會に三位を占めた時のメンバー多数を擁し、全柏工は又會つて高校界に全盛を誇つた時代の宮川等優秀選手を繰出して對戰、水準の高い巧技を連發してシーソーゲームを展開したが一対一のままファイナルセットを行わないで引分けとした。

續いて卓球とバトミントンが市内の一流選手の模範演技として行われ、次には劍道、柔道の乱取稽古、模範試合が劍道三〇名の劍友会有段者、柔道は柏崎柔道連盟會員二〇名により實施〇〇名に更に柏崎和洋實踐女學校二〇〇名、市内各町内、刈羽郡婦人連盟、刈羽郡各村よりの參加者が加つて豪華な民踊三階節他が行われた。折から市役所―岡田間コースで開催された縣下高校駅傳競走大會に來柏した各高校の指導者が來場觀覽していたが、この素晴らしさに舌を巻いて絶讃していた。

愈々最後を飾る体操の夕が伝統に輝く柏崎体操倶楽部の發表を兼ねて夜の部として行われた。体倶の舞踊（ボーデ）、美容体操、鍛錬体操、舞踊防風林の発表は流石錬磨の跡を見せ、体操のよさと美しさは觀る者の胸に迫つたことだろう。この夜の部に特別出演した柏農高リード合奏團の張りきつた真面目さは之又聽衆に多大な感銘を与えこの夜のプログラムに光採を添えた。

この音楽と舞踊と体操の組合せは一体にハーモニーされて、明るく、生き生きと、健康のふん囲氣を充溢させて、清潔の心よさに酔いしれる感があつた。

初めて試みた室内の柏崎市体育祭も出場實人員三〇〇〇名、延人員五〇〇〇名の大盛大さで、大成功であつたと滿足しよう。只室内体育館であつたため觀衆の収容力には制限があり、入場出來ない人達には気の毒であつた。

ともあれ、柏崎体育祭は復活第四回にして既に不動の基を築いたと言える。いつもの事ながら、いざと言う時には全力を挙げて献身的な協力奉仕をしてくれる体育団関係者には頭が下る。（今井記）

全國都市体育研究協議會第五回大会広島市で挙行

全國都市体育研究協議會は第五回大會は、十二月一、二、三日の三日間廣島市に於いて開催され、当市より洲崎市長、今井体育課長、坂田四郎吉氏、阿部芳郎氏の四名が參加した。

參加は北海道から九州に至る全国ブロック（一〇ヶ所）一〇〇余名で昨年の柏崎市での第四回大會より遙かに少なかつた、參加が少なかつたのは、(1)時期の失敗（例年は六月頃開催）(2)各都市の赤字財政による出張費の節減のあおり、(3)呼びかけ連絡の不定等に原因があつたが、又東海、近畿ブロックの様に、ブロック内組織がうまく出來たところでは、ブロック代表のみを送つた様な事情もあつた。

事務報告、會計報告、調査報告、日独少年交歓のため独逸少年を迎えることに関する接渉報告を、山根（広島）、今井（柏崎）、青木（横浜）各常任理事より爲され承認された後、提案審議に入つたが、主なる審議内容は次の如くであつた。

◎体育立法の件

昨年柏崎大會の折、決議を以つて体育立法制定促進の建議書を國及び關係機關に提出することになつたので、柏崎及び横濱が担當して成文し、文部省、國會スポーツ議員連盟宛提出した。スポーツ議員連盟及び文部省の諮問機關である社會体育審議會で之を取り上げたが、内容がぼう大に及ぶので研究検討することとなつて保留されて居り、現状では具体的な進展は期待出來ない状態にある。よつて本協議會は再び建議書を提出して実現促進を期すこととし文案は柏崎が担當し、常任委員會の議を經て文部、厚生、労働各省、スポーツ議員連盟、各政黨他関係方面に仂きかけることとなつた。

◎全國青少年の家建設運動の件

全國健民少年運動の振興に資するため、都市交歓の少年達が輕便に宿泊や、訓練出來るための施設としてプレハブ式のものを全国三十ヶ所に十年計画で建設する。そのために各市でその計画を研究すると共に本協議會の名を以て国に仂きかけて国費補助を獲得する運動を展開しようと言うのである。

◎健民少年運動展開の件

文部省の無氣力と無策、教育及び体育の學校と社會の偏差、國民の青少年対策への無策、無關心が日本の青少年運動不振の原因を爲している。少年運動組織の幾多の存在にもかかわらずその団体員数は極めて少く振つていない。茲に於いて少年の身体的、心理的特性と社會環境に応ずる少年組織を地域社會の基盤の上に育成しようと言うのである。

各市で健民少年組織を作り、全國組織に発展させるべきかを研究課題にしている參會者を唖然とさせたが、趣旨は休養の重要性と家庭と地域の健康活動の振興のために、行事に捉われ常任委員會で審議することとした。

役員改選は平沼横濱市長再選、常任委員一〇名選出（信越ブロックは今井柏崎市体育課長）事務局は横濱市と決定、副会長は會長の意を聞き、常任委員会で選出することに一任された。

次回開催地は福岡市と横浜市とが候補に上つたが、全國健民少年大會や、日独少年交歓大會等との関連を考慮し、横濱で開催する様にとの意向が強かつたが、これも常任委員會に一任することとなつた。

又訪獨健民少年を引率した洲崎團長（柏崎市長）、本協議会長代理の守田八幡市長の報告があり、守田市長撮影の総天然色映画で西獨事情を拜見した。

恒例による懇親会はガス・ビル食堂で行われたが、坂田四郎吉先生の三階節、柏崎おけさ、米山甚句、佐島をそ上に上げて見せてもらいたかつた。

第四回大会を柏崎市で行つた時、如何に大會内容を豊富に充実せしめんと苦心したことに思い合せ、淋しい氣がした。然し本協議會も五周年を経て漸く地に就いて來た。集つた一〇〇余の顔には闘志が燃えていた。

第六回大會は横濱を希望し、これに期待をかけようとして取り上げないことした。

◎國民体育大会改造の件

國民体育大會が戰後日本の体育振興のための役割を果して來たことを否定はしないが、然し國民体育大會開催及び參加に要する経済的な多大な負担に比し、その実効は國民体育の向上のために大して上つていない。大會施設は主催者（文部省、日本体育協會）よりぼう大なものを要求され、建設費は地方財政を厭迫し、残された施設は距離の点や大きすぎて市民の手軽な利用が出來にくく無駄となつて居り、内容は各種スポーツ種目の重複のきらいなしとしない。參加各府縣は選手派遣二、三百萬を要し、この出費は縣民自体の体育振興のための豫算を大きく食つている。国体を眞に國民のためのものとし、國民の体力向上にひえきする大會たらしめるための改造案を検討し昭和三十年度大會（横浜市中心で神奈川県）に反映させ新規軸を開きたい。各都市に求めたアンケートの集計をまちたのだから、訪獨した八少年もこの大會に集つて、大いに語り合い、その成長ぶりを見たかつたが、それが計画されないだけでなく、廣島市から選ばれた迫田少年の顔すら見えなかつたのは遺憾であつた。又この大会の第二日目の夜と第三日は宮島に會場を移したが、何の會議も持たれず、単に宮島観光に終つたこと及び横濱市で折角苦心して作成した全國都市体育行政状況調査書が都合により配布されなかつたことは第五回大会の印象を低めて残念であつた。全國都市体育關係者は觀光に行つたのではなく都市体育の苦悩を語り合い共同の振興運動展開するために旅路參加したのである。

原爆で灰燼に歸した焼土より、人間の逞しい息吹きがどんなにしてなされたか、廣島の体育がどの様にして行われているか、生の廣島をそ上に上げて見せてもらいたかつた。

第四回大会を柏崎市で行つた時、如何に大會内容を豊富に充実せしめんと苦心したことに思い合せ、淋しい氣がした。然し本協議會も五周年を経て漸く地に就いて來た。集つた一〇〇余の顔には闘志が燃えていた。

第六回大會は横濱を希望し、これに期待をかけようと言う時には全力を挙げて献身的な協力奉仕をしてくれる体育団関係者には頭が下る。（今井記）

一中体育館竣工記念体育祭に奉仕して

（一）

坂田四郎吉

一中体育館の竣工は、直接一中関係者の慶事であるばかりではなくて、我が体育柏崎の誇りであり、吾々社會体育関係者にとつても誠に喜びとする所であります。

私は、その竣工の日を待ち佗びて、工事中幾度か現場を訪れてはその進行を樂つて、十一月六日・七日両日に亘り、柏崎独自の多彩なプログラムによつて竣工記念体育祭が計劃され、私達の奉仕種目も多数編入して戴いたので、大いに張り切つて準備にとりかかるのでありました。

尚主催者に敬意を表する事は、この行事を単に柏崎のみの祭典とせずに、刈羽郡部にも呼びかけようとされた事であります。私も勿論この方針に添つて、此の際出来るだけ全郡各町村を動員して、一つは一中体育館建設の意義を認識して戴き、二つには、此の機會に体育R運動の振興推進を図りたいとの期待であります。従つて私の担當の一つであるFDと民踊は、刈羽郡各町村毎に村長、教育委員會公民館、並に各青年団、婦人團体その他Rグループに書簡、電話、口頭等々と幾重にも連絡をとり、而して各町村の実状、距離の遠近を勘案して出場数を指定の上御願いをし、その出場種目の實地指導にも當つたのでありました。

その偉容を目のあたりしては喜びに胸をわくわくさせるのでありました。そして完成の曉には、記念体育行事を盛んに執り行つて、私達も之れに奉仕し、喜びの誠を盡し、此の体育館の前途を祝福したいと希うのでありました。此の念願が叶つて、十一月六日・七日両日に亘り、柏崎独自の多彩なプログラムによつて竣工記念体育祭が計劃され、私達の奉仕種目も多数編入して戴いたので、大いに張り切つて準備にとりかかるのでありました。

尚主催者に敬意を表する事は、この行事を単に柏崎のみの祭典とせずに、刈羽郡部にも呼びかけようとされた事であります。私も勿論この方針に添つて、此の際出来るだけ全郡各町村を動員して、一つは一中体育館建設の意義を認識して戴き、二つには、此の機會に体育R運動の振興推進を図りたいとの期待であります。従つて私の担當の一つであるFDと民踊は、刈羽郡各町村毎に村長、教育委員會公民館、並に各青年団、婦人團体その他Rグループに書簡、電話、口頭等々と幾重にも連絡をとり、而して各町村の実状、距離の遠近を勘案して出場数を指定の上御願いをし、その出場種目の實地指導にも當つたのでありました。

一方体育倶楽部十余種目の錬磨も夜遅夜続ける等、前年の全國都市体育研究協議會開催時の体育祭に亜ぐ奮闘を喜んで續けるのでありました。

然し、いつも乍ら、庶民相手の体育事業の悲しさで中々計劃通りに成果が上らず、況んや、今回の催しは遠隔の町村には魅力も少なく、農村は尚秋始末も残り中心部柏崎には此の日を目指して色色の行事が重なつて、最も力と頼む比角民踊や大洲　枇杷島の不參加が続出する等苦勞は筆舌につくせぬものがあります。それでも、多方面への呼びかけであるので、豫期せぬ方面から、豫期せぬ多数の參加もあり文字通り悲喜交々といつた次第でありました。

左に私の責任担当種目に就いて、感想と懺悔とをかねた實況を報告申上げたいと存します。

一、ラジオ体操競演會

これは私達体操倶楽部の創始にかかるものであり、是れが振興に一方ならぬ責任感と熱意を持つものでありますが、事志に反して年々衰退の實状にある事は、私の努力の足らぬ所として慚愧に堪えません。殊に今回は体操倶楽部と民踊とFDの方面に力を傾けて、競演會前の指導方面には全然手が廻らなかつた次第で、申訳ない氣持で一杯であります。今回の此の不振に鑑み、何等か振興方策を樹て、これに最善の努力を拂わねばならぬと、痛感反省させられたのでありました。

二、フォークダンス

大体青年層にはフォークダンスを、年輩婦人層には民踊をどの方針のもとに、此の際うんと盛り上げたいと考えて、フォークダンスは左の如く割り当てて御願いするのでありました。

町村及団体名	割当てサークル
高田	三
上條	二
野田	二
鵜川	一
石黒	一
高柳	二
南鯖石	一
土小國	一
小國	一
千谷沢	一
山横澤	一
中鯖石	二
北條	三
田尻	四
北鯖石	三
中通	二
刈羽	二
二田	一
内郷	一
石地	一
高浜	一
荒浜	六
以上郡部四十二サークル	五
八星會	六
メリークラブ	二
プレザントクラブ	二
スワンクラブ	二
日石	三
帝石	二
理研	二
市役所	一
西中通	三
日本通運	二
北日本食品工業	二
柏崎郵便局	四
西川鐵工所	一
鯨波体育同人會	一
鯨砂會	二
体操倶楽部	二
以上市部四十サークル	
合計八十二サークル	

昭和二十九年度を顧みて新年度に望む

米山水泳連盟會長　吉田勝治

残雪の米山にまだ春が訪れぬ頃から、三井田(商)、渡邊(工)、小宮(高)、金子(一中)コーチ等がプールサイドに立ち、若い各高校の選手諸君は飛沫をあげて泳ぎこんでいる様を拜見して私は限りない信頼と感謝の念をもつて期待致して居りましたが、果せるかな昭和二十九年度の柏崎水泳界は素晴らしい躍進を示してくれました。

シーズン開きの、長岡に於ける高校水泳大會に柏工柏商が圧勝し、県下高校大會に於いても強豪相川高校に鋭く迫り、國体には渡邊監督、片山(商)、小関(工)兩選手を送り、立派な成績をあげてくれました。

この好成績は選手諸君の意気と努力は勿論のことながら、水連幹部の方達が一致協力してよく指導していただいた成果であり、感謝に堪えません。

又特筆すべきは日本水連の御厚意による講習會が七月九日、八坂プールに、斯界の權威、高石、鶴田両先生、芦田、谷川、平山の現役一流選手を迎えて開かれたことがあり、柏崎水泳界に大きな刺激と指標を与えていただけたことも大きな「收穫」でありました。

この講習會では技術の指導を得ただけでなく、特に高石先生から教えられたことは、水泳が國民の健康のために非常に大切であり、國民生活と水の関係が密接不離なものであつて、水に親しみ、水を征服することは生命の保全をはかるだけでなく國民生活の活動領域を広める上からも、國民皆泳の國民運動を興さなければならないと言うことでした。私達米山水連関係者は柏崎体育團と協力して毎夏水泳學校を開設して参つた意圖も同様な趣旨に基くものであり、意を強く致しました。高石先生は毎夏自ら芦屋水泳學校長となり、水が魔から小國民の命を守り、泳げない者を二〇〇〇名も泳がれる様に育てて卒業させて居るそうですが、この様であつてこそ水連は世間の信頼をうると思います。

柏崎の水泳學校も一層發展させていただきたいと思います。又小中學校の生徒諸君にも、もつと水泳を教える方法をとつていただきたいと思います。一中には防火用池に工夫を加えてプールを作つていただきましたが、更に他の中學校にも、又小學校にも作つていただきたいと思います。高石先生は海は危険が伴うので一〇名の指導に二人の指導員が必要だが、プールなら一人で五〇名は教えられると言われました。小學校のプールは長さ十五米か二十米深さは一年生の背がたつ程度で充分であると言つています。消防署長さんは理解が深いので好都合でありますが、是非今後の協力をいただきたいと思います。近く完成される三中や、比角小學校、二中、常盤高校理研工場、日本油機及び人家諸氏及び市民各位の御鞭韃と御援助をお願い致す次第であります。(二二、二〇)

情熱の火に油を注げ！陸上競技躍進のために

柏崎陸協会長　外山三郎

昭和二十九年の柏崎陸上競技界は、伝統を承け継いで見るべき成果を擧げた。

その第一に県下及び信越高校界に連覇し不敗の成績を殘した柏高の健闘を擧げなければならない。中距離の澁谷主將、投擲の遠藤、短距離の梅津は高校界の全國的水準にあり、共に全國高校十傑に名を連ね、二井田、森沢、柳等のポイントゲッターを擁して暴れ廻つたのは壯觀であつた。坂井武田去れば澁谷、梅津この後を継ぎ、飯塚を東都に送れば、遠藤直ちにこの先輩の記録を超えると言う様に伝統の強味を發揮した。この蔭には県下高校大會に澁谷を一五〇〇米に潰した如き失敗もあつたが、神林監督の激勵叱咤の猛訓練のあつたことを忘れることは出來ない。

第二には中學生の擡頭であつた。大原(柏一中)小林(柏一中)、江口(柏一中)、五十嵐(二田中)は出色で、全國中學レベルを抜く記録を出した。中でも五十嵐の二〇は、あれよ、あれよと唖然たらしめて、新潟市チーム以下を遙かに引き離して、柏崎の真價を示した。

又大野、坂井、新田(以上柏工)下條(柏商)の活躍岡田主將、を中心とする柏崎短大の進出等柏崎陸上競技界は健全であつたと言えよう。

大會運営面を見るに、信越高校、上越中学、郡市青年、上越高校、縣高校駅伝に示された見事さは、柏崎ならではの感あり、特に上越中學大會運營担當の柏中、県高校駅伝担当の柏工の手ぎは一きわ優れ、全國大會の運営以上の評判をとつた。

然し手ぶらで快哉を叫んでばかりいてはいけない。詳さに検討するに、遺憾がなかつた譯ではない。その一つに駅伝競走の不振があつた。全柏崎チームが県驛伝に優勝し、柏高、柏工が県高校駅伝に一、二位を占めた昨年の圧勝に較べ、県駅伝には春秋とも不参加県高校駅伝には柏工が優勝を逸し、柏高下位に転落する惨めさは、心ある者に憂を與えた。興隆期には、必ず中、長距離が強い。中、長距離の真しな猛練習の気風が他の種目の選手達の気風に影響するからだ。長距離の沒落は衰退のきざしとも見るべきもので、戒心、奮起を期すべきであらう。

その二つに競技者態度の問題がある。練習場、コーチに恵れ恩愛に慣れすぎて感激と、規律と、厳格を失いかけてはいないだらうかグランド器具の愛護は全きであろうか。自ら爲すの気概を持ち續けているだろうか。坂田先生の訓戒にまつまでもなく、競技者必須の心構えを改めて胸に刻むべきであろう。

この心構えのみが、柏崎を大成に導くものである。柏崎は県下の最先頭にあるが、全國レベルに較べる時小成に甘んじては居れない。選手諸君の一層の奮起を促すと共に、監督、指導者諸氏の善導をお願い致した い。選手諸君の奮起の具体化を多期練習に見よう。そして春、トラックに現れる潑溂の諸君を期待しよう。

体育視察　上京の記

紫樓生

去る十一日午後一時から日比谷公會堂に於て、三橋体育研究所の大発表會が開催されるので、例によつて体操倶樂部の諸君にも見學させたいし、それよりも、最近學校教育に体操が再認識されつゝあるように思われるので、此の際郡市の先生方を多数御案内したいと思つて、体育団から郡市各學校に案内して頂いたのであつた。然るに馳せ参ずる者は柏小品田先生、一中茂木先生、田尻中学近藤先生の三人でしかなく、私の期待は裏切られてしまつたが、それに体倶の柳、植木、橋崎、小熊、宮川、德間の諸君に私達親子の八名を加えて一行十一名は十日の夜行列車で猛雨の柏崎を後に出発した。水上駅で窓から顔を出すと、月が中天にあらわれ星が降るように瞬いていた。

上京第一日(十一日、木曜、晴風強し)

午前四時半上野に着、一番電車で東京駅に下車、真暗の宮城前を、重いボストンバグッ(中味は?)を下げて逍遙、夜明けを待つて二重橋を背景に記念撮影と云つた譯。七時頃宿舎の青年會館に落付く、室は四階の410番二十数畳敷きで、十数人の會合には持つて來いの廣さだ。先づ以つて体操倶樂部東京支部の連中を喜ばせてやろうと電話で各方に連絡をとる。果せる哉「あら一先生ですか」とか「ほんとうですか」てな譯で、電話口で胸をわく〳〵させている姿が目に見えるようだ。

九時、會館を出て、國會議事堂参觀に向つた。参議員會館の西川様の室を橋爪秘書の案内で、訪れると莞爾として御在室で、ドヤヤと全員が押し込んでしばしお話を承る。その隣が小林孝平様の室で、その秘書が諏訪町の北角虎男君なので、紹介して貰つて名刺交換。西川様のお声がかゝる南鯖石村出身の参議院参事砂塚由藏さんが案内だから分にすぎた参觀であとは説明の限りではない。唯その豪華さに目を瞠るばかりであつた。之れでも此の建築費一切は軍艦一隻よりも安く上つたと云うから、軍備のぼう大さは驚く外はないとは砂塚さんのお話であつた。

午後〇時半、徒歩で日比谷公會堂へ。さきの電話で駈けつけた栗林さん、西本さん、宮崎氏、西川氏等と喜びの対面、十五人が肩を並べて入場、特設の招待席に腰を下して開會を待つ。定刻、錦繡の幕が上つて入場行進からプログラムに入り、三橋先生陣頭指揮で二時間半の熱演である。先生の高い指導原理、眞体育の理想に基づく気魄と技術と訓練をいかんなく展開されて満場の観衆を全く魅了し嵐のような拍手に終始して四時閉幕、我等柏崎勢は、ごつた返している楽屋を訪れ、三橋先生に祝辞を申上げ堅い握手を贈つて退場、夕暮れの神宮外苑宿舎に引きあげる。そこに田村さん宮嶋氏も來會更に気勢が上り、食堂で百三十円也の定食で晩餐會、お酒ならぬお茶で乾盃、これが体倶の伝統の一つである感激居士の坂田は「うれしいのう」「懐しいのう」の連発である。

室に帰つて車座をなし、婦人方寄贈の茶菓で茶話會ならぬお湯呑會で、体倶東京支部総會と云つた形で感謝の交歓、つづいて今日見學の感想交換から郷土藝術の合演で時の移るを知らず と云うところ、十時東京支部の連中の歸りを會館入口で手を振り交しつゝ姿の消えるまで唱いつゞけるのであつた。

十一時、室一杯に床を並べて就寝。

第二日(十二日、金曜晴)

午前七時全員起床、あくまでも靜寂な外苑風景である。洗面して角力場に集り土俵を取り囲んで体操、橋崎選手先頭で外苑一Kキロコースを駈歩一周、身にしみる清々しさである。七時半食堂、朝食八十円也、宿料百五十円とは有がたい次第だ。

八時青年會館を出て、程近い都立体育館を見て省線でお茶の水駅に下車。体育の大本山、岸記念体育館に入り各室を一巡、食堂にてコーヒーを飲み、小川町に下つて美津濃運動具店に寄り店内一巡、ここで宮川氏十一文の排球靴其他々註文近くのYMCAに入る。ここでは主事補の池田健一さんから詳細懇切の案内をして戴き、一同正に垂涎、体育館実現の決意を固めるのであつた。茲で図らずも茂木先生、その幼友達、基督青年會の吉川彦さんに邂逅で、先生感激一入と云う處ここの食堂で中食、思い思いの註文、中にハムライス二個あり、期せずしてそれが坂田親子のものであつたので一同大笑。

これから都電で新宿えへそして小田急で祖師ケ谷大蔵下車三橋体育研究所えへ昨日の御祝辞並に御禮に伺う。三橋先生折悪しく御不在であつたが、奥様のおすすめで一同應接間に上り込み、しばしお話を承る。奥様は賢夫人の譽れ高く、又舞踊の大家にて、邦正美先生やお茶の水教大の戸倉ハル先生等の先輩にてお出での由は兼ねてお聞きして居つたのであつたが、今約廿数分間のお話の中には、日本舞踊史の一面が伺われ、感動一方ならぬものがあつた。

ここを辭して程近い喜多見町の邦正美先生の舞踊研究所を訪れる。秘書の小杉さんの案内で隈なく拜見。その規模は必ずしも我々が想像したような大きなものではなかつたが、さすがに芸術家の感覚な又建つたもの。全く清新、しよう洒、その造形の卓拔なる我々の目には唯珍らしく、ここでも亦、我等の体育館にもがなと柳君小首を傾けて低徊去り難しの風情であつた。

やがて久保田先生(母堂は在柏崎)が見えられ、話は越路にと云つた譯。藤薄研究所を後に新宿に戻り解散して思い思いに親戚知己に宿を求むべく別れ、私達親子は市川の孫達の許を訪ねて一泊。晩酌を頂戴して疲労一洗。

第三日(十三日、土曜晴)

今日は專ら知己訪問の予定の所東京の眞中で体育民踊指導の日となつてしまつた。

朝八時、三人の孫達に袂れて先づ日本橋橘町の繊維問屋として大發展の矢口信次様「柏」を訪問する。例の如く三十名の店員の活動正に戰場の如しだ。矢口様は本四矢口綿屋さんの新宅、体操倶樂部功労者矢口貫一氏の令弟であり体操倶樂部のOB會員であつて、その奥様(元本四歌代家出)が又大の民踊ファンだから、私の顔を見ると、目の廻る忙しさも忘れて、チャンス逸す可からずとばかりに早速談判。須田様とは兼ねてからの約束もあつたので承諾して一先づ矢口様を辭し田園調布の濱田廣介先生を訪ねる。先生、手を取らんばかりにお喜び下され、お互にその後の身邊を語り合つて時の過るを知らず。宿泊せよとの強つてのお引きとめの中お袂れしてお約束の大同帆布に赴く。之れ亦非常のお喜びに迎えられ、矢口家からのお三人を交えて研磨いたような床上にて十一時まで講習、須田様御夫妻とハイヤーで豪華な本邸に案内され、更に練習して一時を過ぎて絹布羽根布団に包まれて就寝。

第四日(十四日、日曜曇後小雨)

七時起床、庭園並に新住宅拜見本日はお休みなので新備後表の上で又しても練習開始遂に正午になる。此間唱も聲ふるわせての私であつた。青年ODの中心橋本さんと堅い握手を交してエレベーターを降り急ぎ上野駅え着いたのが九時少々前であつた。やがて開札、プラットホームを走つていると、窓から顔を出していられた本町六丁目の山崎様ぶ「おい坂田さん、席がありますよ、席がありますよ」とのお聲がかり、お蔭で座席に腰を下すことが出來て助かつた次第。

ああ営業八年、此の間上京百余幾回か、殆んど問屋廻りで一日歸りの私であつたが、終戰後始めての四五日の滞在で老の身乍ら久方振りでよき勉強が出來て車中愈々奉仕の躋を堅めつゝ歸柏したのである。(二九一一、一五)

体育健康問顧 (1)

体操で病氣をなおしましょう『胃炎の人に』

或る會合の席上で、T氏が、私のそばへ寄つて來られて。

『先生。胃の悪い者にはどんな体操をやつたらよいでしようか』

とのお尋ねでした。あまり突然の事でもあり、次のプログラムが始まつたのでお答も出來なかつたのでしたが、このような問いをやりたい方がたくさんおありのように思われますので。御参考までに申上げて見ます。御役に立つたら幸です。

胃炎

栄養に関する病氣で、運動によつて最も治療し易いのは便泌、慢性、胃炎、及び下痢であります。坐業生活を営むもの、殊に大食する人に免がれない消化器病に就いては、古來数多の注意が拂われていますが、併し胃の故障は暴食に原因するよりは、寧ろ神經が原因になつて起る事も多いものであります。

慢性胃炎の人は食後二時間後に、按摩を家人からでもやつて貰うのです。その方法は、左から右及び下方に、下腹部と上腹部とを押しつけたり、操んだりして貰うのです。それから食事一時間以上の時間に自発運動をきまりよく毎日やつて下さい。自発運動とは、ラヂオ体操でもよいし、今流行の美容体操は最もよいです。又工夫してラヂオ体操の五番六番七番のような運動を、とくに何回かくり返して行うことです。

但し疲労の點に到達しない前に運動を止める事であります、又歩行のような後除な耐久的の運動を行うのは効果が多いものであります。

急性胃炎の人

お正月のお雑煮や、御馳走の食べ過ぎ又は呑み過ぎで、急に胃の具合が悪い場合は減食して、消化し易い物をよく咀嚼して食べることは常識的に誰でも知るところですが、やはり輕い自發的運動歩行や体操が最も効果があります筆者は出來得れば、一日断食をおすすめしたのですが仕事やおつとめの人には不可能とすればよくなるまで一飯でもぬきにする位はやつて頂きたいと思います。

ローンから授けられたあの体操と歌と踊りをそのまま次々にくり展げて臭れて懐しさと楽しさで胸一杯唯々目頭は熱く、陶酔二時間半新備後表の上で又しても練習開始遂に正午になる。此間唱も聲ふるわせての私であつた。青年ODの中心橋本さんと堅い握手を交してエレベーターを降り急ぎ上野駅え着いたのが九時少々前であつた。やがて開札、プラットホームを走つていると、窓から顔を出していられた本町六丁目の山崎様ぶ「おい坂田さん、席がありますよ、席がありますよ」とのお聲がかり、お蔭で座席に腰を下すことが出來て助かつた次第。

ああ営業八年、此の間上京百余幾回か、殆んど問屋廻りで一日歸りの私であつたが、終戰後始めての四五日の滞在で老の身乍ら久方